

(単元) 小説『山月記』

(本時のねらい)

人間が虎になるという運命の不条理さを主人公が自己分析していく語りの場面が『山月記』の山場である。不条理な運命は、偶然によるものではなく、自己の性情に起因した必然によるものだったのだと主人公の心理は変化していく。自己の在り方や生き方について悩む思春期の生徒にとって、共感できる部分の多い作品である。

P O P制作を言語活動として取り入れることにより、生徒自身が心に響いた文章を見つけ出し、なぜそこが魅力的だと感じたのかという根拠を明確に表現させる。さらに、他の生徒が制作したP O Pの発表を聞くことを通して、主人公李徴が語る運命の不条理さ、李徴を虎に変身させたものは何だったのか、李徴と袁慄の友情、二人の人生についての人間らしさ、幸せとは何かなど様々な視点での読みを深めさせる。

(ICT活用方法)

生徒が制作したP O Pをすべて撮影しておき、電子黒板に投影しながら発表させる。

(本時の展開)

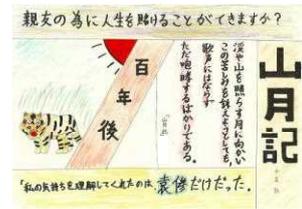
時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法	備考
導入 5分	1 本時の目標を聞く。			
展開 40分	2 2人1組で制作したP O Pを発表する。  3 他のペアの発表について、感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明確にして発表させる。</li> <li>・根拠をよく聞くように指示する。</li> <li>・他のペアの作品や発表のよいところを捉えさせる。</li> <li>・自分たちのP O Pとの相違点や共通点について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影しておいたP O Pを電子黒板に投影する。</li> </ul>	
まとめ 5分	4 本時と単元の学習内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生の主役は自分であり、多様な価値観を受け入れながら模索</li> </ul>		

		していくことに 気づかせる。	
--	--	-------------------	--

(授業の様子)



(生徒のPOP)



(生徒の反応と課題，改善を要する点)

言語活動としてPOP制作を取り入れた。どのペアも懸命に制作に取り組み，発表することができた。POPは教室や廊下などに掲示することも可能であるが，自分が制作したPOPを示しながら，直接その思いを語ることは，他者の心に訴えかける方法として有効である。小説の学習のまとめとして，自己の思いや考えを表現し，それを他者と共有したり比較したりすることを可能にする点で，ICTを活用した今回の取組は有効だと思われる。

発表の際の声量や進め方など，プレゼンテーションの面では指導すべき点がまだまだ多いが，回数を重ねることで改善できると考えている。